

## フリーランス同士が交流できるコミュニティを求める人が半数を超える

### ——連合がフリーランスの意識・実態調査を実施

フリーランスで働く人の疑問の解消や、相談ごとの解決をサポートするウェブサイト「Wor-Q」を運営する連合は、フリーランスで働く人がフリーランス同士で交流できるコミュニティを必要だと考えているかどうかを探るため、インターネット調査を行った。すると、「フリーランス同士が交流できるコミュニティが必要だと思う」と回答した人が52.0%と半数を超えた。

### 8割は集まり・ネットワークに「参加せず」

調査は、フリーランスとして働く人の意識と実態を把握するために2021年10月1日～5日に実施。全国の20歳～59歳の男女で、フリーランスを本業として働く人1,000人の有効サンプルを集計した。

情報交換や問題点の共有のために集まり・ネットワークに参加しているか聞いたところ、「参加している」が19.3%、「参加していない」が80.7%で、参加していない人が圧倒的に多かった。

「参加している」と回答した人(193人)に、どのような集まり・ネットワークに参加しているのかを聞く(複数回答)、「フリーランスのコミュニティ」が50.8%で最も高く、次いで「フリーランス同士の勉強会・懇談会」(35.8%)、「専門家主催のセミナー・講座」(18.1%)、「業界団体の集まり」(17.1%)などの順で高かった(図表)。

### 病気やトラブルの経験がある人のほうが必要性をより認識

全ての回答者に、フリーランス同士が交流できるコミュニティをどのくらい必要だと思うか聞いたところ、「非常に必要」が11.6%、「やや必要」が40.4%で、必要と考える人が

52.0%と半数以上にのぼった。一方、「全く必要ではない」は14.2%で、「あまり必要ではない」は33.8%となっている。

仕事内容別にみると、必要と考える人の割合は、「コミュニケーション関連」(61.9%)で最も高く、次いで「エンターテインメント関連」(58.3%)、「クリエイティブ関連」(56.2%)、「理・美容関連」(55.6%)などの順で高い。

さらに、トラブルや病気・怪我の経験の有無別にみると、「病気・怪我の経験がある人」では63.1%と6割を超えたのに対し、「病気・怪我の経験がない人」では49.3%とほぼ半数だった。「トラブルの経験がある人」でも62.0%と6割を超えたが、「トラブルの経験がない人」では45.4%と半数を下回った。

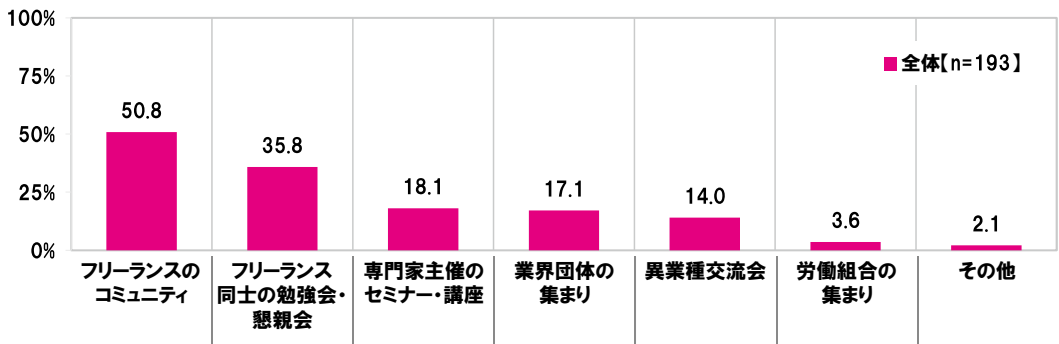
フリーランス同士が交流できるコミュニティを必要と考えている人(520人)に、どのようなときに必要だと感じるか聞いたところ(複数回答)、「仕事の情報交換をしたいとき」が最も高く62.1%で、次いで、「仕事上の人脈をひろげたいとき」(50.4%)、「仕事を増やしたいとき」(40.0%)、「仕事のアドバイスをほしいとき」(37.1%)、「仕事の悩み・不安を抱えているとき」(36.3%)などの順で高かった。

男女別にみると、女性では「仕事の悩み・不安を抱えているとき」が46.0%と5割近くにのぼったが、男性では同割合は29.5%と女性ほどの高さはなく、「仕事の情報交換をしたいとき」(63.3%)や「仕事上の人脈をひろげたい」(52.1%)といったビジネス目的での必要性を感じる人の割合が高いが目立った。

### 契約内容「必ず明示がある」は3割以下

仕事の実態について、まず、契約内容について、主

図表 情報交換や問題点の共有のために参加している集まり・ネットワーク [複数回答形式]  
対象: 情報交換や問題点の共有のために集まり・ネットワークに参加している人



要な取引先事業者から書面（メールを含む）による明示があるか尋ねたところ、「明示がない時もある」が45.5%、「明示があったことはない」が24.6%で、合わせて7割（70.1%）の人が契約内容の明示が無いまま業務を行った経験があるという状況が明らかとなった。「必ず明示がある」とした人は29.9%で、3割以下にとどまっている。

仕事内容別にみると、「必ず明示がある」の回答割合が最も高かったのは「IT 関連」（47.3%）で、次いで「コミュニケーション関連」（45.2%）で高かった。一方、「明示があったことはない」の回答割合では「営業・販売関連」（40.0%）や「ものづくり・ものはこび関連」（38.5%）で比較的高くなっている。

主要な取引先との仕事はどのように報酬額が決まることが多いかを尋ねると、「取引先と自分の双方で協議し決める」が56.5%と半数を超えたが、「取引先が一方的に決める」との回答が34.2%と3割以上にのぼった。

### 39.7%が仕事でトラブルを経験、3割は対処できず

この1年間にフリーランスの仕事でトラブルを経験したかを尋ねると、「経験した」が39.7%で、「経験しなかった」が60.3%となっている。

仕事内容別にみると、トラブルを経験した人の割合が比較的高かったのは、「クリエイティブ関連」（47.4%）と、「コミュニケーション関連」（47.6%）で、どちらも約半数となっている。

トラブルを経験したと回答した人（397人）に、その内容を尋ねると（複数回答）、「報酬の支払いの遅延」と「一方的な仕事内容の変更」がいずれも29.5%で最も高く、次いで「不当に低い報酬額の決定」（26.4%）、「一方的な継続案件の打ち切り」（25.7%）、「報酬の不払い・過少払い」（23.4%）などの順となっている。その他にも、「一方的な報酬額の引き下げ」（20.2%）など報酬に関することが多くあがっている。

さらに、仕事でトラブルが起こった際、どのように対処したかを尋ねると（複数回答）、「発注者と直接交渉」した人が40.1%と4割にのぼった一方、「何もしなかった・できなかった」人が31.2%と3割以上にのぼった。

トラブルは解決しているかを尋ねると、「全て解決

している」が43.3%、「一部解決している」が38.0%、「全く解決していない」が18.6%で、半数以上を完全に解決していない人で占めた。

### 病気や怪我の間の生活「貯金を切り崩した」が6割

仕事が原因で病気や怪我をしたことがあるか尋ねたところ、「したことがある」は19.5%、「したことはない」は80.5%となった。

仕事内容別にみると、「したことがある」の回答は、「ものづくり・ものはこび関連」が28.8%で最も高い。

さらに病気や怪我をしたことがある人（195人）に、その間どのように生活費をまかなったか尋ねると（複数回答）、「貯金を切り崩した」（61.0%）が突出して高く、次いで「家族の収入でまかなった」（29.2%）、「加入していた保険を利用した」（19.0%）、「公的な補助金・助成金などでまかなった」（14.9%）などとなった。

### 福利厚生必要性を4割があげる

フリーランスを続けるうえでの不安や悩みを尋ねると（複数回答）、「収入が不安定・低い」が最も高く56.8%。次いで、「仕事がなくなったときの保障がない」（49.7%）、「社会保障（医療保険・年金等）が不十分」（25.4%）、「仕事の受注が難しい」（20.4%）、「社会的信用が低い」（19.4%）などの順となった。男女・世代別にみると、30代女性では「出産・育児の支援制度が不十分」（9.4%）が全体と比べて高くなっている。

フリーランスがより働きやすくなるために必要だと思ふことを尋ねると（複数回答）、「フリーランスが利用できる福利厚生」が最も高く43.6%、「所得が補償される制度・仕組み（病気やケガで働けなくなった際の所得補償）」（35.7%）、「雇用保険のような制度・仕組み（失業中の生活の安定を図るための仕組み）」（32.9%）、「フリーランスが団体扱いで加入できる共済・保険」（29.7%）と続いた。

男女・世代別にみると、20代と30代の女性では「フリーランスの妊娠・出産・育児に対する制度（給付金や休暇等）」（それぞれ36.8%、27.1%）が全体より10割以上高かった。